

公立入試問題分析

入試制度が大きく変化し、入試問題はどのようにかわったのか。当塾の各教科主任で入試問題の傾向を分析しましたので、是非読んで今後の学習に役立ててください。

国語

A, B問題については、例年の後期入試問題よりも易くなっている印象を受けました。文章も読みやすく、設問も例年と形式が変わらなかったため、基礎的な知識を身につけた上で過去問にしっかり取り組んでいれば十分な点数がとれたと思います。C問題については、文章が難しくなり、「規格化」「対象化」「同定」「志向性」等、読解するのにやや高めの語彙力を要求される内容になっているように思います。設問の方は特に難易度の変化はありませんが、記述問題の字数が75字とここ数年で最多でした。後に述べる作文も含め、制限時間内で満足のいく解答を書くのはなかなか難しかったのではと思われます。

B, C問題では300字の作文も出題されましたが、例年の後期の問題とは違う形式で、難しく感じた受験生も多かったのではないのでしょうか。例えばC問題では、他者の心を読む2つの方法から1つを選び、「その利点と問題点を挙げ」、さらに「自分の考えを述べる」というもので、これらの条件をきちんと満たしていないと点数につながりません。このように、条件がいくつか与えられる中で、自分の考えを書くという形式が今後は作文の主流になると思われます。

この傾向を受けて、塾としては国語の授業で入試の過去問演習で対応します。また、作文に関しては活用力問題を作成し、自分で考え、文章を書き、添削を受けることを繰り返していただければ、十分に対応できるでしょう。

坪田 陽一 (国語主任)

▲C問題大問四・6

方法A	自分の心を手がかりとして他者の心を読む方法。他者がかかっている状況に自分自身をまはらう。これら2つの経験を基に、自分自身の考えや感情態度を他者に、他者自身を同じような心の状態であると考え、他者の心を理解しようとする。
方法B	他者の心や他者のおかれた状況の特性についての教養を適用し、他者の心を読む方法。自分自身を最終手段としない事柄でも、ある状況が引き起こす心の状態や、心の状態と行動の関係などについて一般的知識を活用して他者の心を理解しようとする。

▲C問題大問一・5

数学

大問の数はC問題が3題、B問題が4題、A問題が4題でした。

C問題は昨年までの前期B問題(文理学科等が受験)と傾向・難易度とも大差なく出題されており、B問題は昨年までの後期B問題(後期入試)と傾向・難易度ともに例年通りといえます。その中で出題された図形の問題は、毎年、配点のウェイトが高く志望校合格には、この図形の問題を正解することが大変重要です。ただ、過去問題をさかのぼって学習していれば、解き方はよく似ており、十分対応できた問題ではないかと思います。特に、立体図形を切断して考える問題などは公立入試ではよく出題されます。

また、B問題に関しては、このような学校にあるラインカーを用いた関数の問題が出題されました。これに関しても例年の傾向と言え、過去問題をさかのぼれば、身近な事象を用いた問題はよく出題されています。そのため、身近な物事に少し興味を持って取り組んでいると、頭の中でイメージがつかみやすくなるかもしれません。

また、記述問題に関しては、昨年と同様の問題数であり、活用型の問題(自分で解き方・求め方を書く問題)が増加するかと思われましたが、今年は見送られています。ですが、来年以降、活用型の問題は増加していくことが予想されます。

総合的に見て、数学は昨年と比べて難易度、出題傾向とも大きな変更なく出題されており、過去問題を解きその傾向に慣れる中で、解き方、着眼点を身に着けることが必要です。ただ、数学の入試問題は、例年難易度が高く、高得点を取るのが難しい科目なので、それに対応するためには塾で行われる確認テスト・小テストを合格し、基礎力をつけ、秋以降には入試問題にあたり、図形を見る力を養う必要があります。



岡本 泰行 (数学主任)

英語

C問題は昨年度前期試験で使われた文理学科の問題と同等の難易度。大問は3題出題され、大問1は対話文・大問2はスピーチ原稿・大問3は自由英作文で、出題形式は例年と同じでした。しかし、小問が大問1・2で各1題ずつ増えました。

また、長文分量は例年の1.5倍程(1分間に52語程度のスピード)に増えており、来年度からは、昨年度の2.7倍程(1分間に96語程度のスピード)に増える予定ですから対策としては、長文読解に記述対策が欠かせません。長文読解はただ読むだけではなく、短い試験時間内に読んで解くということが必要になるので、毎回の長文読解の宿題などでも、時間を測って演習するようにしてください。

例年と同じように自由英作文が出題されましたが、今年度の問題は来年度からの問題文を英語にするという傾向を意識してか、出題が英文という形でした。下記がその問題の抜粋です。

Someone said to you, "When we meet a person for the first time, first impressions are important." What do you think about this opinion? Write your opinion in about 40 words.

「第一印象の重要性」について意見を述べる問題ですが、内容が抽象的な上、英語で書くとなると語彙と表現の成約が加わります。つまるところ、英語を書く前段階の日本語をいかに上手く作るかがポイントですが、この際、自分が得意とする英語の構文をいくつか持ち、それを組み合わせることで日本語を作るのが、得点になる自由英作文の書き方になると思います。

塾では毎回のコンピュータの宿題の最後の1題に必ず英作文を出題するようにしています。このような宿題1つを取っても、入試を意識して演習するのとしらないのでは大きな差になります。まずは、宿題にきちんと取り組むことから始めてください。

熊谷 周作 (英語主任)

理科

全体を見た印象としては、昨年度からの傾向ですが問題文が長く、丁寧に読み情報をきちんと整理しながら解く必要がある問題と言えます。ただ、理科は共通問題ということもあり、全体的には難易度は高くなく、教科書内容の理解で対応できます。

特に中学3年生は夏期講習までに行う単元別テスト(8枚)を完璧に覚えることで、基本事項の復習と定着はできますので、そこに力を入れること。また、夏以降は、私立入試問題の演習解説授業とプレテストを3回タームで実施しますので、間違い直しと、質問による不理解箇所の徹底、克服で対応はできそうです。

ただ、今後の入試傾向の変化を考えた時「活用力」問題は外せません。理科においては今年度から小学部の授業内で「活用力問題」の時間を導入しています。これは、学んだ単元の知識を使って、身近な現象について各自の意見をディスカッションするというものです。例えば、「白いアスパラガスと緑色のアスパラガスはどうやって作り分けることができるか。」

植物の緑の部分は葉緑体であり光合成と深く関係がある事、また、光の当たる量と葉緑体の量の関係や、なぜそのようなことが起きるのかなど、話し合いを持つことで「なぜ」と「なぜならば」を意識した、論拠を求める話し合いができるようになれば理想であると考えています。

また、高校受験については、全国学力調査で問われた、「このような仮説をもったが、どのような実験でこの仮説を証明することが可能か」など、より理科の本質に迫る問題が出題されてくることも考えられます。これらに関しては、夏以降の実践演習や授業で取り組みたいと考えています。

熊谷 真宏(理科主任)

社会

今年度の入試傾向は、地歴公民ともに特別解答するのが難しい問題はありませんでした。地理、歴史は農業に関する問題が多く出題され、例年の傾向通り、国名は知られているが場所が曖昧となっている国の場所を問う問題が出題されました。

昨年度と比較してみると、今年度からグラフ、資料の読み取りの問題が昨年の4題から8題に倍増し、問題文の文章量が増えています。これは、社会においても単なる知識の暗記から、問題文や統計資料から考えさせようという、今後の問題傾向の方向性を示唆する内容になっているのではないかと考えられます。

今回の入試問題では活用力問題は見受けられませんでした。今後はそのような問題傾向は強まると考えられます。社会で活用力……。イメージが付きにくいかもしれませんが、他の都道府県では頻出です。下記に神奈川県の問題を少しアレンジしたものをご紹介します。

連合軍が日本を占領していた時期、資料Ⅰと資料Ⅱはその広報に用いられた紙芝居です。この資料をもとに改革の前の土地の所有状況と、改革の目的と内容について70字以内で書きなさい。解答にあたっては、資料Ⅰからは、改革の前の土地の所有状況を読み取ったうえで、地主という語を必ず用いて書き、資料Ⅱからは、改革の目的と内容を読み取ったうえで、政府という語を必ず用いて書きなさい。なお、文末は句点「。」で終わり、全体の字数に入れること。

資料Ⅰ

表側の絵



裏側の文章

第二に、ほんとうの自作人はごくわかしきません。全国の農家の半分が持っている土地はどれ位でしょう。全体の土地の一割もないのです。農家のうち六割四分までは多かれ少なかれ、小作しているのです。

資料Ⅱ

表側の絵



裏側の文章

政府の買上げ条件は？



小作人の買取方法は？

(「国立公文書館デジタルアーカイブ」から) (平成27年神奈川県公立高校入試問題)

模範解答

この改革以前は、土地の多くを地主が所有していた。そこで政府は、自作農をつくり出す目的で、地主から土地を買い上げ、小作人に売り渡した。

資料Ⅰ冒頭、ほんとうの自作人はごくわかしきません。などとあるようにこの問題は「農地改革」に関する問題であることがわかります。農地改革とは政府が地主から土地を買い取り、小作人に安くで売り渡すことで、小作人を減らし、自作人を増やす政策です。難しい資料を用いていますが、模範解答を見て分かる通り、農地改革の説明と違いはありません。

今後このような問題に対応していくためには、単に語句を覚えていくだけでなく、その事件、政策もしくはそれらのつながりなども理解しておく必要があります。

当塾の社会科では、社会が単なる知識の暗記にならないよう、小5や中学1年生で習う地理では地図帳での場所調べ、小6や中2で習う歴史では、なぜそのようなことが起きたのかを関係性の中で理解させるよう指導します。また、中学3年生の公民は、地理で平面的に、歴史で奥行きを持って社会を捉えられるようになった上で、現代社会について考える教科です。よって公民は、地理や歴史とのつながりの中で、理解する必要があります。今後の活用力問題に対応するためにも、そのような観点を子供達に与えながら指導したいと考えています。

高木 直也 (社会主任)